

第2節

高校と大学の学びの接続

1 高校時代の学習時間

高校3年生の9月の学習時間が「1時間未満」（「ほとんどしなかった」＋「およそ30分」、以下同）の比率は20.7%。「一般・センター入試」では1割程度だが、「指定校推薦」「AO入試」では5割近くになる。高校時代「5時間以上」学習していたグループでも、大学入学後「自主的な勉強をする時間」が「1時間未満」（「0時間」＋「1時間未満」）の比率は46.3%にのぼる。

高3・9月の平均学習時間は148分

図1-2-1は、大学生に高3・9月時点振り返ってもらい、当時の学校外での学習時間をたずねた結果である。全体をみると、「1時間未満」（「ほとんどしなかった」＋「およそ30分」、以下同）の比率は20.7%と5人に1人を占める一方で、「3時間以上」（「3時間」＋「4時間」＋「5時間」＋「それ以上」）の比率は48.5%と約半数となっている。平均時間にすると、148分（2時間28分）であった。

入試方法によって学習時間は大きく異なる

ただし、図1-2-1が示すように、学生がどんな入試方法で受験したかによって大きく傾向が異なる。入試方法別に「1時間未満」の比率をみると、「一般・センター入試」は11.6%であるが、「一般推薦入試」になると23.9%、さらに「指定校推薦」「AO入試」ではそれぞれ47.8%、49.4%と半数に迫る。平均時間でみると、「一般・センター入試」が173分、「一般推薦入試」が130分、「指定校推薦」「AO入試」がともに79分と大きな差がついている。入試方法によって、高校時代の学習時間が大きく異なることがわかる。

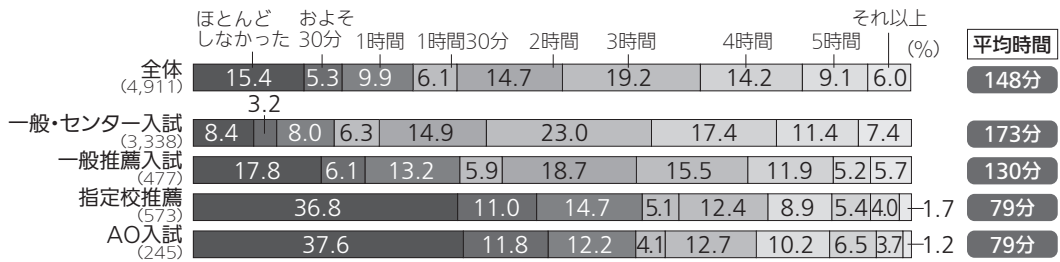
高校時代の学習時間が長くても大学での学習時間も長いとはいえない

高校時代の学習時間の長さは学習習慣の定着度を表す指標であると考えられる。ならば、高校時代に学習習慣を身につけた（学習時間が長かった）学生ほど、大学入学後も学習を継続しているのだろうか。図1-2-2・3は、高3・9月の学習時間の長さ別に、大学での学習時間を「授業の予復習や課題をする時間」と「大学の授業以外の自主的な勉強をする時間」に分けて集計した結果である。これをみると、高3・9月の学習時間が1日「1時間未満」のグループでは、週「0時間」の比率は「授業の予復習や課題をする時間」で28.9%（図1-2-2）、「大学の授業以外の自主的な勉強をする時間」にいたっては46.0%と半数近くなっている（図1-2-3）。一方で、高3・9月の学習時間が「5時間以上」だったグループにおいても、「週0時間」の比率は、それぞれ16.7%、24.0%となっており、平均時間でみても週3時間台と決して長いとはいえない。高校時代に身につけたはずの学習習慣が、必ずしも大学での学習習慣とリンクしていない実態がうかがえる。



高校3年生の9月の初め頃、平日に学校の授業以外で、1日平均で何時間くらい勉強していましたか。学習塾や予備校、家庭教師、学校での課外の補習・講習での勉強時間も含めてください。

図1-2-1 高3・9月時点の学校外での学習時間(1日あたり)(全体・入試方法別)

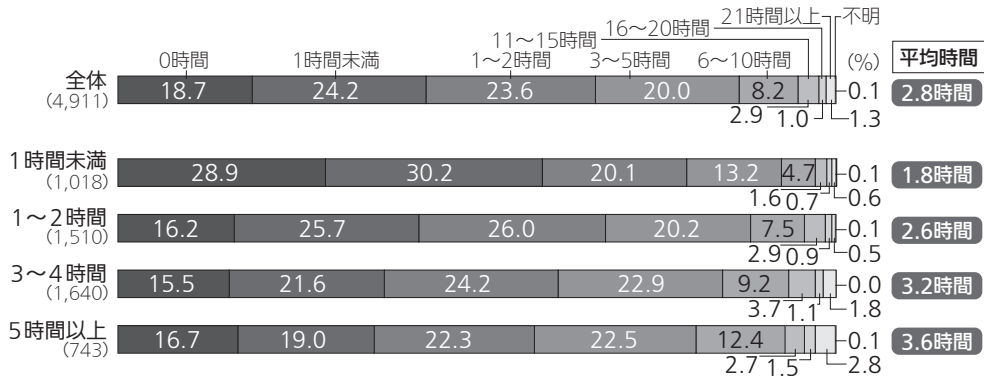


注) 平均値は「ほとんどしなかった」を「0分」、「およそ30分」を「30分」、「5時間」を「300分」、「それ以上」を「360分」などと置き換えて算出した。



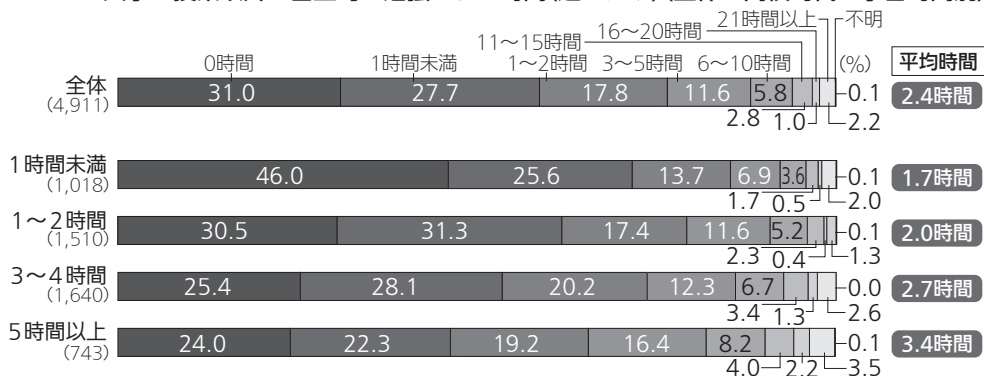
ふだんの時間の過ごし方について、次の項目は1週間(月曜日～日曜日)で何時間くらいになりますか。今学期の平均的な1週間を振り返って、それぞれについてあてはまるもの1つをお選びください。

図1-2-2 大学の授業の予復習や課題をする時間(週あたり)(全体・高校時代の学習時間別)



注) 平均値は「0時間」を「0時間」、「1時間未満」を「0.5時間」、「16~20時間」を「18時間」、「21時間以上」を「23時間」などと置き換えて算出した。

図1-2-3 大学の授業以外の自主的な勉強をする時間(週あたり)(全体・高校時代の学習時間別)



注) 平均値は「0時間」を「0時間」、「1時間未満」を「0.5時間」、「16~20時間」を「18時間」、「21時間以上」を「23時間」などと置き換えて算出した。

2 受験科目、高校までの知識・理解が不足している科目

受験で経験した科目は、「英語」(75.9%)、「国語」(71.1%)、「数学」(58.5%)の3つの比率が高い。「国公立」は「私立」と比較して、上記3科目に加え「物理」「化学」などで比率が高く、受験科目数も多い。一方、大学入学後に高校までの知識・理解不足を感じる科目は、多くの科目で「国公立」よりも「私立」の方の比率が高く、入試難易度の低い偏差値「50未満」の「私立」では、知識・理解不足を感じる科目数をもっとも多い。

受験科目のトップは「英語」

大学受験で経験した科目をすべてあげてもらったところ、「英語」の比率が最も高く、75.9%であった(図1-2-4)。「英語」に続いて、「国語」が71.1%、「数学」が58.5%と高く、その他の科目を大きく引き離している。「英語」「国語」「数学」の選択比率が高い傾向は、大学の設置者別にみると顕著になる。「英語」(国公立91.3%>私立67.7%)、「数学」(国公立88.8%>私立42.2%)、「国語」(国公立87.4%>私立62.3%)と、いずれも「国公立」で9割前後と高くなっている。上記3科目以外の科目も含めて、「私立」との差は明確である。

「国公立」は「6科目」、「私立」は「3科目」が多い

次に、受験した科目数に着目してみよう。上でみたように、科目別の選択比率が「国公立」と「私立」で差があったことから推察できるように、受験科目数についても、「国公立」と「私立」で明確な差がついている。図1-2-5は、受験科目数の分布を示したものである。これを見ると、「国公立」では「6科目」が43.0%とピークになっており、次に「7科目」が26.3%、「8科目」が8.5%と徐々に減っていく。一方、「私立」は2割を超えるのが「0科目」(22.2%)と「3科目」

(25.3%)のみとなっている。さらには、「私立」の入試難易度が低い偏差値「50未満」のグループでは、「0科目」の比率が31.2%と3割を超す。「国公立」よりも「私立」、「私立」のなかでも入試難易度(偏差値)が低いほど、受験科目数が少ない傾向があることがわかる。

高校までの知識・理解不足を最も感じるのは「英語」

大学で学ぶ上で、高校までの知識・理解不足を感じる科目をたずねたところ、「英語」が最も高く48.4%であった(図1-2-6)。続いて、「数学」が高く37.7%、「物理」(24.7%)や「化学」(23.3%)も比較的高い。上位2科目の「英語」と「数学」に対して知識・理解不足を感じる比率は、大学の設置者別でみると差がある。「英語」(国公立43.0%<私立51.3%)、「数学」(国公立34.5%<私立39.4%)と、「私立」の学生は「国公立」と比べて、「英語」「数学」などに対する知識・理解不足を感じていることがわかる。

知識・理解不足を感じる科目は、「1科目」が最も多い

受験科目数の分析と同様に、高校までの知識・理解不足を感じる科目数の分析を行った。



あなたは大学受験で、どのような科目で受験しましたか。経験したの全てについてお選びください。

※「センター入試」と「一般入試」をともに受験した場合は「センター入試」の科目も含めた全ての科目をお選びください。

図1-2-4 受験科目（全体・設置者別・私立大学の入試難易度(偏差値)別）

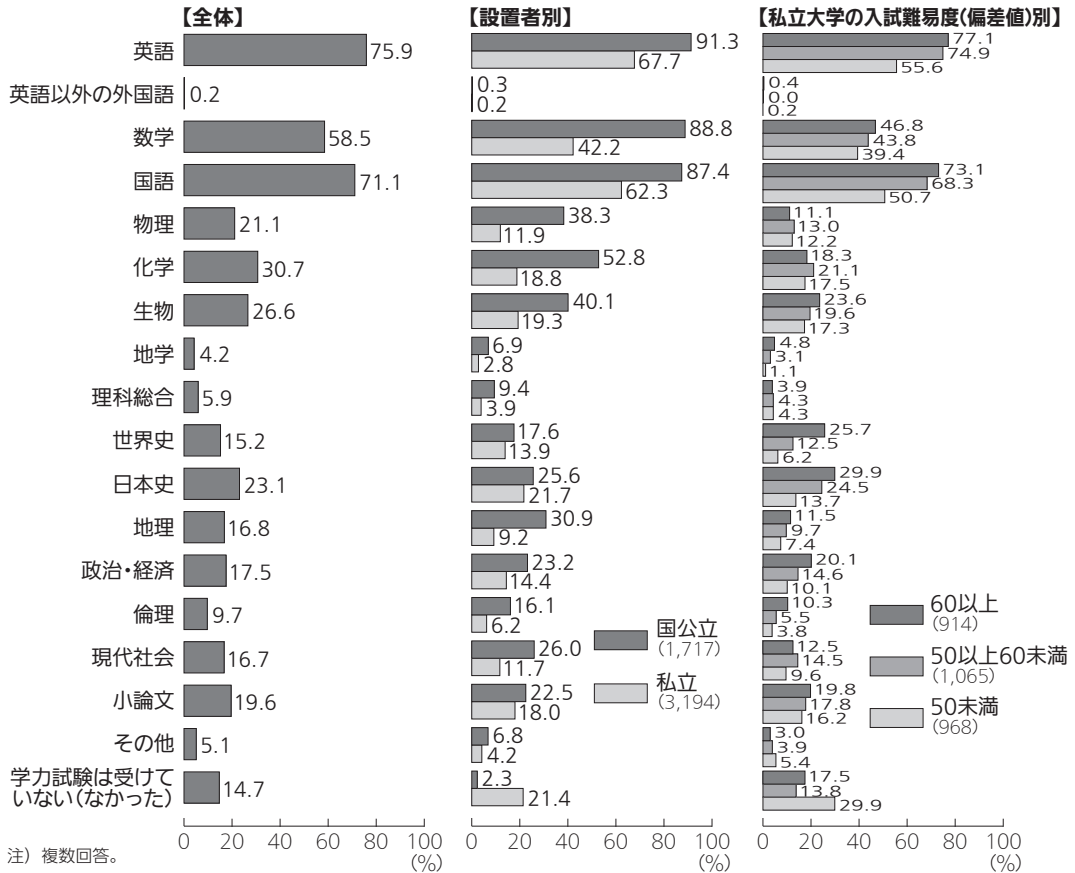
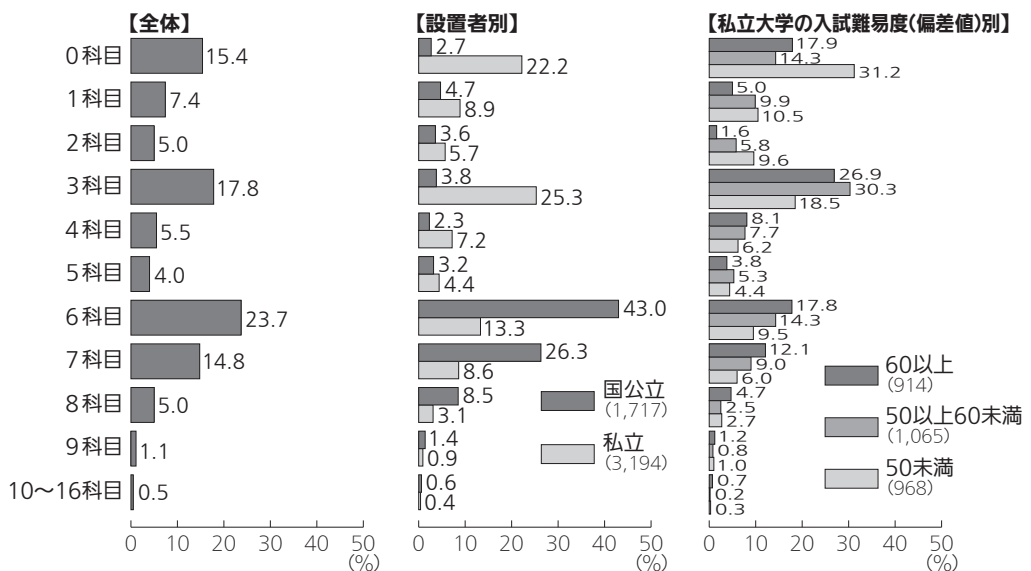


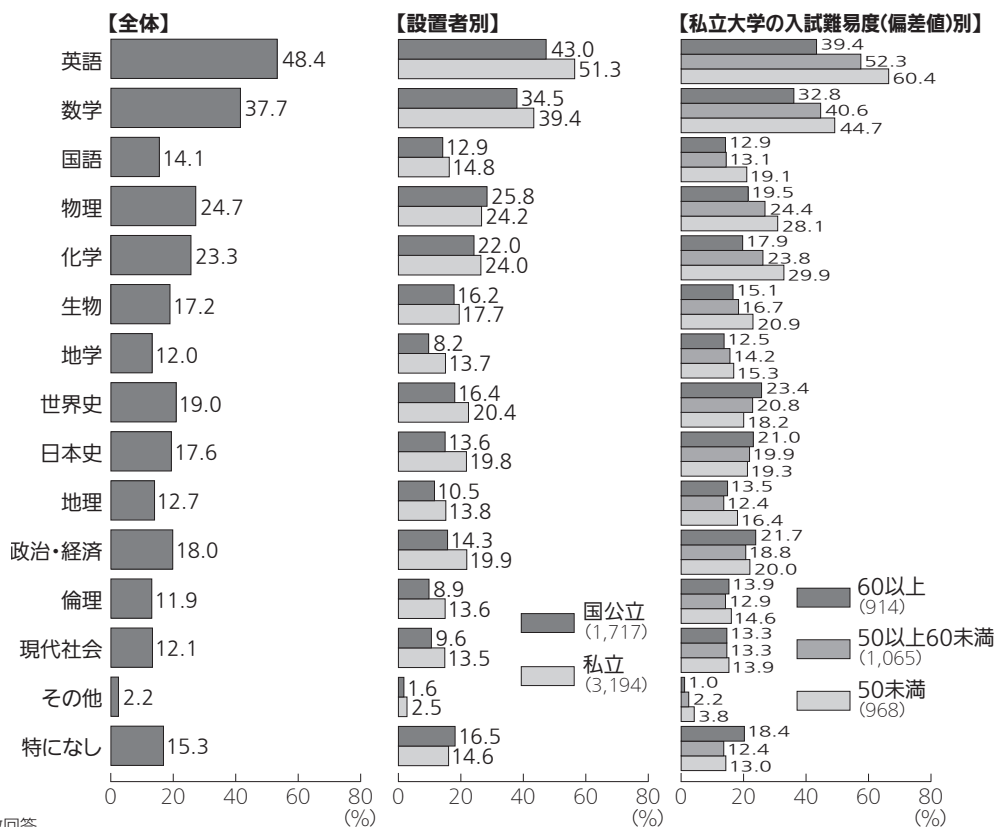
図1-2-5 受験科目数（全体・設置者別・私立大学の入試難易度(偏差値)別）





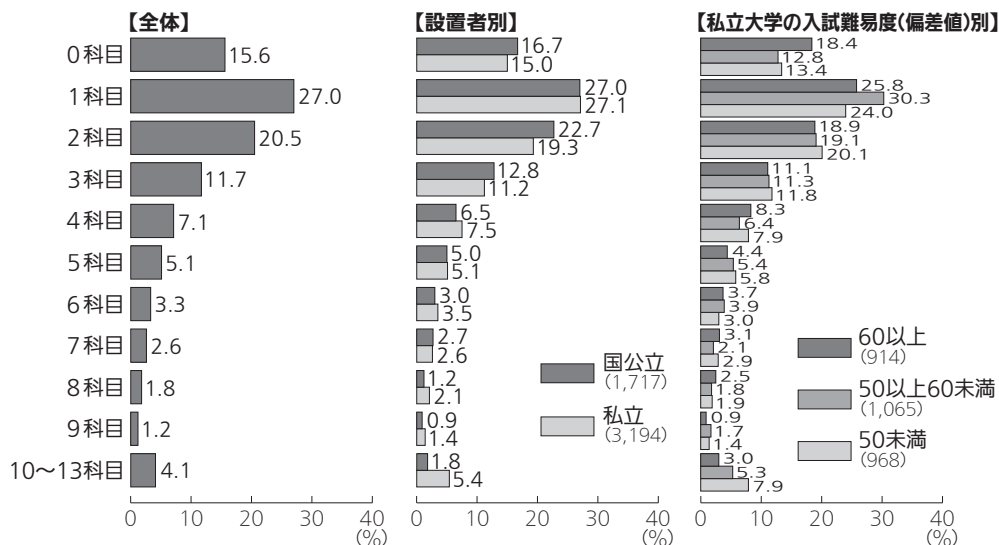
あなたが大学で学ぶ上で、高校までの知識・理解が不足していると感じている科目はありますか。あてはまるもの全てをお選びください。

図1-2-6 高校までの知識・理解不足を感じる科目 (全体・設置者別・私立大学の入試難易度(偏差値)別)



注) 複数回答。

図1-2-7 高校までの知識・理解不足を感じる科目数 (全体・設置者別・私立大学の入試難易度(偏差値)別)



注) 「知識・理解不足を感じる科目数」は「その他」「特になし」を「0科目」、それ以外を「1科目」として算出した。

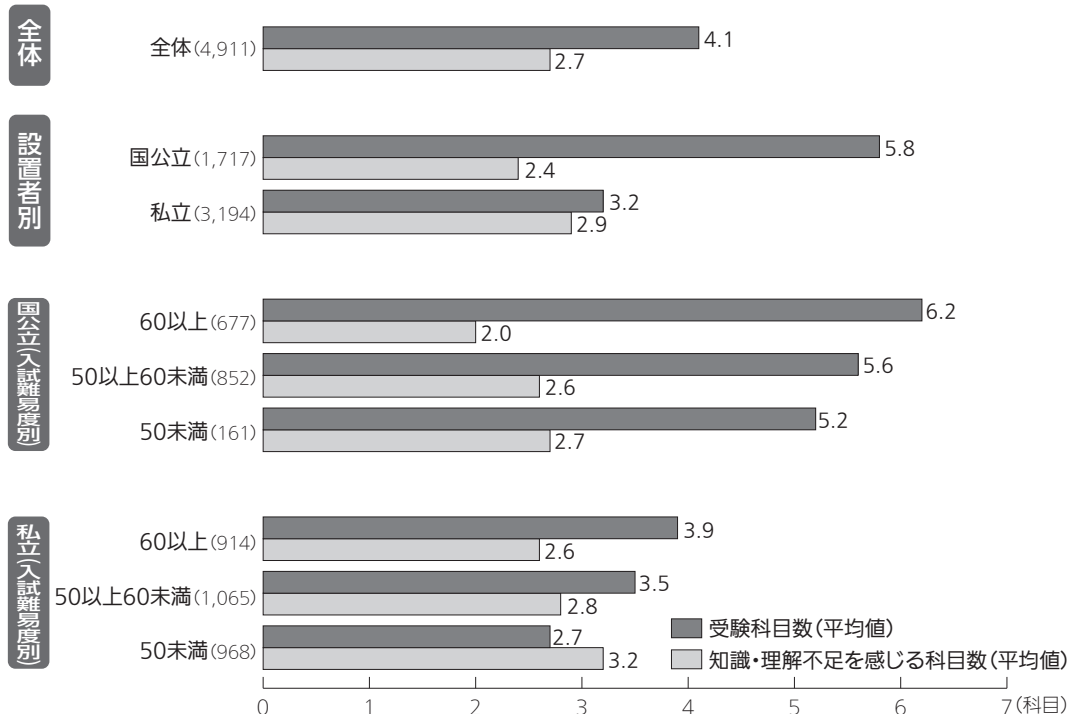
図1-2-7は、知識・理解不足の科目数の分布を示したものである。これをみると、「1科目」の比率が最も高く27.0%であり、続いて「2科目」が20.5%、「3科目」が11.7%と徐々に減っていく。大学の設置者別の違いはあまり明確にみられない。一方、私立大学の入試難易度(偏差値)別にみると、偏差値「60以上」のグループで、「0科目」の比率が高くなっている。

.....
入試難易度(偏差値)の低い「私立」で知識・理解不足を感じる科目数が多い

受験科目数と、高校までの知識・理解不足を感じる科目数の平均値を比較したものが、図1-2-8である。全体では、受験科目数が平均4.1科目となっており、知識・理解不足を感じる科目数の平均2.7科目を上回っている。これを大学の設置者別にみても、

「国公立」では受験科目数が知識・理解不足を感じる科目数の倍以上(受験科目数5.8科目>知識・理解不足を感じる科目数2.4科目、以下同)となっているが、「私立」ではわずかに受験科目数の方が多くなっている(3.2科目>2.9科目)。さらに、「私立」の入試難易度(偏差値)別にみると、偏差値「60以上」のグループでは、受験科目数の方が知識・理解不足を感じる科目数を上回っている(3.9科目>2.6科目)、偏差値「50未満」のグループになると、受験科目数を知識・理解不足を感じる科目数が上回る(2.7科目<3.2科目)。科目の内容やレベルは問わない、科目数の単純な比較ではあるが、「国公立」よりも「私立」で、「私立」のなかでも入試難易度(偏差値)の低いグループにおいて、受験科目数が少ないだけでなく、大学入学後に高校までの知識・理解不足を感じる科目が相対的に多い傾向があることが示された。

図1-2-8 受験科目数と知識・理解不足を感じる科目数(全体・設置者別・設置者×入試難易度(偏差値)別)



注1)「受験科目数(平均値)」は「その他」[学力試験は受けていない(なかった)]を「0科目」、それ以外を「1科目」として算出した。
 注2)「知識・理解不足を感じる科目数(平均値)」は「その他」[特になし]を「0科目」、それ以外を「1科目」として算出した。